

各職員に、転送または配布をお願いします。

目 次

[今月のトピックス]

シーニック・バイウェイ

[募集します！]

e シンキング投稿募集

[政策研究の紹介]

研究報告書の紹介 「幼保一元化」

[私の選んだこの 1 冊]

10 年後の日本

『日本の論点』編集部著 / 文春新書

[みてきたゾウ・つたえるゾウ！！]

平成 18 年度政策研究発表会

[今月のトピックス]

シーニック・バイウェイ

平成 18 年 5 月 9 日に「日本風景街道（シーニック・バイウェイ・ジャパン）戦略会議」の第 2 回会合が開催されました。この戦略会議は昨年 12 月に発足したもので、シーニック・バイウェイとは、シーン（景観）の形容詞「シーニック」と、脇道を意味する「バイウェイ」を組み合わせた言葉です。

これまで国内の多くの道路は、高度経済成長を背景に、単にモノ・人を運ぶための“道具”として整備が進められてきたため、沿道空間との関係を持ちつつ、人・文化の交流空間、あるいは生活空間となっていた本来の「道」の役割

が忘れられ、美しさ、景観、味わいなどのニーズは優先されてきませんでした。

近年、道路に対する多様なニーズに対応するため、道の駅の整備、オープンカフェなどの街道空間を有効に活用する試み、地域の人々の植栽・清掃などへの参加、景観を楽しむための美しい街道づくりなどが、住民の積極的参加のもとに進められているところです。

こうした動きをさらに推進させるためには、街道の機能の多様化や地域の資産の有効活用などの視点に基づき、地域が主体となり、都市部や郊外部などそれぞれの特徴に応じ、“訪れる人”と“迎える地域”の交流による美しい街道づくりを支援する仕組みや体制の確立が必要となります。また、街道づくりが推進されることで、その地域の活性化を後押しするという効果も期待できます。

この戦略会議は、新たな支援の仕組みや体制の構築へ向けて設置されたものです。具体的な内容としては、景観や歴史・文化的に価値のある道路を認定し、価値向上を支援するといったものなどが挙げられます。既に北海道では、全国に先駆けて、2003年度から「千歳～ニセコルート」「旭川～占冠ルート」の2ルートでモデル的な取組を実施したが、その成果を踏まえ、すでに全道で本格展開しています。

第2回戦略会議では、昨年度モデルルートとして応募及びプレゼンテーションのあったルートについて、戦略会議が現地調査等を行い、また戦略会議にワーキンググループを設置し、理念・仕組み・制度の具体的な検討を実施していくこととなっており、第3回戦略会議が10月に開会される予定となっています。

所管である国土交通省は、今年度予算で7500万円を計上し、民間非営利団体（NPO）をはじめとした活動主体が行う道路景観整備計画の策定や、沿道の景観修復作業などを支援する枠組みも整え、今後、国や自治体、民間のネットワーク構築といったことも積極的に支援していく方向にあります。また国土交通省道路局では、「モデルルートを通じ、どのような支援方法にするかなどを勉強しながら、この取組を育てたい」としています。（B）

[募集します!]

e シンキング投稿募集

e シンキングでは、自主研究グループ等の研究紹介、講演会等の案内・レポート、研究誌等の発行、政策関係の書籍レビューなど、政策情報に関する投稿

をお待ちしています。

「これは、eシンキングの記事になるかな」ということがありましたら、ぜひ彩の国さいたま人づくり広域連合政策管理部政策研究担当までお問い合わせください。

TEL:048-664-6681 FAX:048-664-6667

E-Mail: jinzai03@hitozukuri.or.jp

[政策研究の紹介]

研究報告書のご紹介

「幼保一元化」(平成15年度)

この研究報告では、「少子化対策基本法」や「次世代育成支援推進法」などを踏まえたうえで、幼稚園と保育所という「二元行政」の仕組みを、先進地事例を考察しながら新しい「子育て」の場を創るために最も尊重されなければならない利用者側の視点に立って、自治体を取りうる政策・施策について提言しています。

先般、「就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律案」が閣議決定され、早ければ今年の10月より、0歳～就学前のすべての児童を対象に幼児教育と保育を一体的かつ一貫して提供する「認定こども園」をスタートさせる予定と報道されています。本報告書が「考えるためのヒント」を少しでも得るきっかけになればと思います。

http://www.hitozukuri.or.jp/jinzai/seisaku/80kenkyu/01/H15/H15sum_yoho.htm

平成12年度～17年度の研究報告書については

<http://www.hitozukuri.or.jp/jinzai/seisaku/80kenkyu/01/top.htm>

[私の選んだこの1冊]

10年後の日本 『日本の論点』編集部著 / 文春新書

「衝撃の大予測 あなたは生き残れるか」。本書の帯に書かれたセンセーショナルなキャッチコピーに惹かれ、さっそく一読してみました。

超少子高齢社会、消費税二けた化、団塊世代の大量定年、学力低下、地球温暖化、財政破綻…。本書では、10年後はもとより、現在の日本に差し迫った

あらゆる分野の社会問題が、全部で47項目にわたり取り上げられています。その一つ一つを複数の執筆者がテーマごとに分担し、具体的な数値データ等を示しながら、問題の経緯や原因を理論的に、大変分かりやすく解説しています。どのテーマも小論文のスタイルで完結していますので、関心のあるテーマだけを“つまみ食い”という活用も可能です。

ただ、読み終えて少し残念だったのは、総じて10年後の日本が悲観的に論じられているところ。例えば、雇用問題では、人口減少や2007年問題を契機に人材の空洞化が進み、外国人労働者の受入れは避けられないと提言する一方、フリーターは500万人、ニートは100万人を突破すると予測するなど、定職を持たずに老いる若者たちの姿を憂えています。

また、各テーマとも、問題提起が主体であり、解決策までは十分に述べられていないので、若干“消化不良”という感想を持たざるを得ません。とは言え、標題のとおり国家レベルの観点で論じられている「日本」の未来像を、自らの自治体や身近な生活レベルの問題に置き換え、我々自身がそれぞれ解決策を考えてみるのもよいのではないのでしょうか。本書には、そんな意義があるように感じました。(ISO)

[みてきたゾウ・つたえるゾウ!!]

平成18年度政策研究発表会
(平成18年5月29日(月)10:30~16:30 コルソ7階ホール)

平成17年度の政策課題共同研究の発表として、政策研究発表会が、浦和駅前のCORSO(コルソ)ホールで行われました。

研究発表は、「自治体版 市場化テスト」「目標管理による人事評価制度の導入」「災害協定について考える」「『自治体』病院の健康チェック」であり、その後、鳥取大学地域学部教授の光多 長温氏による講演という構成でした。

平成17年度の各テーマは、より実行性の高い、効果的・効率的な行政経営を目指していくという点で、それぞれ共通するテーマであると感じました。

まず最初に「自治体版市場化テスト」の研究報告が行われました。平成18年5月26日に成立した公共サービス改革法案(市場化テスト法案)についてのこれまでの取組状況や、地方の先進自治体における取組を踏まえ、新しい公共を構築する中で、行政・企業・住民という各主体が、お互いに競い合う緊張感を持ちつつも、相互理解・協力がなければよりよい地域は創れず、そのためのコミュニケーションの場を提供するのが市場化テストであると位置づけていました。

「目標管理による人事評価制度の導入」の報告では、財政難や職員削減、住民ニーズの多様化・高度化などの現状を踏まえ、「変革者」の職員育成という視点から目標管理制度の導入について、5つの原則に基づき、マトリックス表を用いるなどの具体的な手法について報告がありました。

「災害協定について考える」では、災害時の救援物資の過不足解決のための災害協定のあり方について、現状分析によりあるべき姿（理想）を示し、それに対する6つの目標と7つの提言を行いました。また、まとめの提言として「地域防災力の向上」は地域への愛着心、近隣の人とのつながりを育み、協定が有効に機能するという提言がありました。

「『自治体』病院の健康チェック」では、自治体病院の、特に財政的な現状を踏まえ、従来の公営企業法による会計基準と改正された病院会計準則とをスムーズにつなぐ手法と、これらを事業に有効活用するための方法を、簡単な事例をもとにして報告がありました。病院会計準則の導入の最大のメリットとして、他の病院との比較を可能にし、それにより病院経営の改善に資するということを挙げていました。

光多教授の講演は、「構造改革時代の地方行政」と題したものでした。世界の行政機能の変化を、日本の動きと比較しながら説明されていて、またPPP（Public Private Partnership）について、その具体的内容と、わが国への導入の現状と課題について、さらにそれらを踏まえた今後の行政のあり方について話があり、市場化テストについては手段の一つであるという考え方を示されていました。（B）

平成17年度行政課題研究（市場化テスト）報告書概要版については
http://www.hitozukuri.or.jp/jinzai/seisaku/80kenkyu/05/H17/H17_MT.htm

平成17年度共同研究報告書概要版については
<http://www.hitozukuri.or.jp/jinzai/seisaku/80kenkyu/01/sum/H17sum.htm>

[編集後記]

先週行われた、県職員「新規採用職員研修（2年目過程・福祉）」の内容の一つに、障害者疑似体験としてアイマスク体験があり、2人一組でアイマスク着用者及び引率者となってセンター内を移動するというものがありました。

先般、テレビを見ていたら、同様のことを日本マクドナルドの「ハンバーガー大学（人材育成のための社内機関）」の研修でも行っていると紹介がありました。店長（引率者）が、アルバイト（アイマスク着用者）と組んで障害物などの設定されたフロア内を歩くことを通じて、状況の把握や的確な指示を行うことを主目的としているとのことでした。

内容が同じでも異なる目的や視点、スタンスがある。受講生が研修を通じて、こうしたものを自然に感じ取ってくれたらいいな、と感じました。（B）

[e シンキング]

ご意見・掲載希望

[政策研究の紹介] [私の選んだこの1冊] のコーナーや、セミナー等の参加レポートを募集しています。是非下記までご連絡ください。

発行元

彩の国さいたま人づくり広域連合 政策管理部（小澤・江森）

〒331-0804 さいたま市北区土呂町2 - 24 - 1

TEL:048-664-6681 FAX:048-664-6667

WebPage: <http://www.hitozukuri.or.jp/jinzai/>

E-Mail: jinzai03@hitozukuri.or.jp